



US HARDWOOD INFORMATION No.32

May, 2018

American
Hardwood
Export
Council
(AHEC)

c/o American Consulate General 2-11-5 Nishitenma, Kita-ku, Osaka, 530-0047, Japan



IFFT interiorlifestyle Living in Tokyo 2017

「アメリカ広葉樹椅子プロジェクト in 北海道」 北海道の木工作家、家具メーカーと椅子でコラボ



2017年11月20日(月)～11月22日(水)の3日間、東京・有明の東京ビッグサイトでIFFT interiorlifestyle living 2017が開催されました。アメリカ広葉樹輸出協会(AHEC)では、椅子に限定したテーマのもとで北海道の木工職人や家具メーカーの職人16名と「アメリカ広葉樹椅子プロジェクト in 北海道」と題したプロジェクトを展開、その作品を展示しました。

現在の北海道の木製家具生産額は都道府県中10番目であり、その約60%が旭川地域で製造されています。北海道の家具産業はメーカーを中心とした旭川地域とクラフト系を主体とする札幌や帯広などの旭川以外の地域の二つに大きく色分けされています。プロジェクトには家具産地である旭川地域から7名、札幌及び帯広地域から9名の皆様に参加いただきました。

戦前の北海道の家具産業は、海の玄関であった小樽が中心的な存在でしたが、旭川は豊富であった大雪山系の広葉樹の存在と明治中期以降屯田兵村の建設、官公庁や学校さらに陸軍の連隊の設置といった大量の需要を背景に官民一体による木工業の振興策が行われた結果、大正時代に家具産業の基礎が作られたのです。

出展された各作家の力作である19点の椅子には、すべて「アメリカ広葉樹合法性証明」または「アメリカ広葉樹環境プロファイル」の証明が確認されたアメリカ広葉樹材

が用いられています。三角形の小さな子供用のスツールやシンプルで木の素材感が味わえるベンチ、新しい木材の用途を考えた木製の車椅子からアートの領域に近い作品まで、個性あふれる多彩な素晴らしい作品がブース内に並べられました。脚の角度や手触りなど細部にいたるまでそれぞれの作者の木に対する想いと匠の技が活かされた作品に、来場者は触れたり座ったりと優しい木の感触と素晴らしい木工技術を楽しんでいました。

「木」と「山」とAHECの「A」をモチーフ



レインボーブリッジを背景に北海道の出展者の皆さんと記念撮影。前列左から当協会社隆洋日本代表、星幸一氏、高橋三太郎氏、モーガン・パーキンス氏、須田修司氏、梅原紳一郎氏、上野貴史氏、後列左から八重樫尚史氏、石津真一氏、岡田通人氏、桑原義彦氏、谷川清樹氏、關口洋平氏。

にしたシンプルだが力強い三角形で構成されたデザインの展示ブースは、来場者だけでなく「Exhibition Space Design」の編集者の目にも留まり日本唯一の展示会ブースデザイン集に掲載されるという嬉しいおまけも付きました。

また、会期中の11月21日(火)の午後6時からはヒルトン東京お台場で出展者をはじめ家具業界、木材業界の関係者、報道陣を招いてレセプションを開催しました。

ご後援いただいた北海道東京事務所の近藤晃司氏と(一社)日本家具産業振興会会長

参加 16 社の皆様の力作

の加藤知成氏のご挨拶の後、米国大使館農産物貿易事務所所長のモーガン・パーキンス氏の乾杯の音頭で始まり、北海道からの参加者と共に時間の許す限り熱心な意見交換が行われました。

出展者数は日本から 348 社、海外からは 124 社で、3 日間の来場者数は 16,603 名でした。

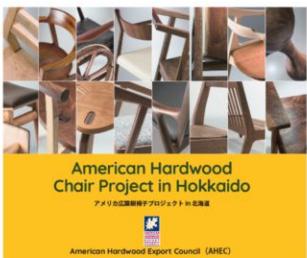


(一社)日本家具産業振興会
北海道東京事務所の近藤晃司
氏

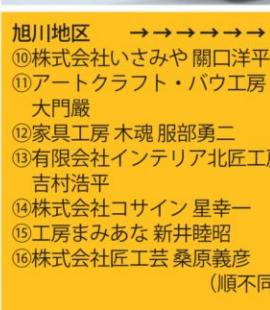
氏

今回展示されたすべての作品の詳細は、期間中会場内で配布された下のパンフレット「American Hardwood Chair Project in Hokkaido」に掲載されています。

日本の広葉樹の中心地である北海道の家具の歴史や現在北海道で活躍する木工職人の本音の座談会なども掲載されています。このパンフレットはご希望の方に無料でお送りいたします。



札幌地区 →→→→→→
 ①家具工房 santaro 高橋三太郎
 ②woodworking 楠舎 本山義光
 ③カントファニチャーアンドクラフト 石津真一
 ④家具工房旅する木 須田修司
 ⑤木の家具 清水寛晃
 ⑥北風 works 梅原紳一郎
 ⑦Zoo factory 岸本幸雄
 ⑧KEN'S WOOD WORKING 都築謙司
 ⑨pat woodworking 岡田通人



旭川地区 →→→→→→
 ⑩株式会社いさみや 關口洋平
 ⑪アートクラフト・ハウ工房
 大門嚴
 ⑫家具工房 木魂 服部勇二
 ⑬有限会社インテリア北匠工房
 吉村浩平
 ⑭株式会社コサイン 星幸一
 ⑮工房まみあな 新井睦昭
 ⑯株式会社匠工芸 桑原義彦
 (順不同)

宮城県仙台市で初の「アメリカ広葉樹建築家セミナー」を開催



上は宮城県仙台市での建築家セミナー風景。左下は飯田善彦氏、右下はジェームス・カトラー氏

アメリカ広葉樹輸出協会(AHEC)は、2017年6月27日(水)に東京で「日米建築家懇談会」を、翌28日(木)は仙台で「アメリカ広葉樹建築家セミナー」を開催しました。

今回は米国側講師として、アメリカ建築家協会(AIA)に在籍する9万人の建築家の3%だけが許されたFAIA(Fellow of AIA)の称号を持つCutlerand Anderson Architectsのジェームス・カトラー氏にお越しいただきました。

カトラー氏はマイクロソフト社のビル・ゲイツ氏の私邸を始め住宅や環境建築で活躍されており、オレゴン州のNewberg Residenceで2016年のAIA HOUSING AWARDを、ペンシルベニア州のPennsylvania Farmhouseで2017年のAIA HOUSING AWARDを連続で受賞、環境建築では2014年と2016

年にAIA COTE TOPを受賞されています。

仙台での「アメリカ広葉樹建築家セミナー」の開催は今回が初めてでしたが、東北地区的建築家や木材関係者など約75の方にご出席頂きました。仙台ではカトラー氏に加え、(株)飯田善彦建築工房の飯田善彦氏、そして全米広葉樹製材協会・主席等級検査官のデイナ・スペサート氏、木材塗装のスペシャリストである木材塗装研究会運営委員の長澤良一氏にご講演いただきました。

20世紀を代表する建築家の一人であるレイ・カーン氏に師事され、素材にはそれぞれの素質があり、強み、弱みを持っている。その強みを見出して使っていくことの重要性を学んだとされるカトラー氏は、「素材への畏怖」のタイトルで講演されました。素材に

意思があるとすればそこには魂が宿っているわけで、私たち建築家の役割はその魂を外に向かって開かせることだと思います。これが建築設計の唯一の手段ではないが、様々なものの本質を解き明かそうという氏の建築に対する理念を語っていただきました。公共建築であれば施設や制度、住宅であれば家族の本質、また建築される場所の歴史や風土などすべてに物理的な関心を持ち、人間にとつて何が必要なのか、また人間の感情というものを体现し、どのように理解するかが重要なだと語られ、その理念に基づいたプロジェクトについてご説明いただきました。

「そこでしかできない建築を考える」のタイトルで講演された飯田善彦氏は、ログハウスや伝統建築的な木造ではなく木材の繊細

セミナー講師のプロフィール



飯田 善彦
Yoshihiko Iida
建築家

1950年埼玉県浦和市生まれ。1973年横浜国立大学工学部建築学科卒業後、計画・設計工房(谷口吉生+高宮真介)、建築計画(元倉真琴との共同主宰)を経て、1986年飯田善彦建築工房設立。2012年よりArchisearch Library & Cafeを事務所に併設。2007-2012年横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授。現在、法政大学大学院客員教授。2014年よりJIA神奈川代表。主な作品:川上村林業総合センター森の交流館(1998年日本建築学会作品賞)、名古屋大学野依記念物質科学研究所・学術交流館(2004年BCS賞、中部建築賞、愛知県まちなみ建築賞)、横須賀市営鴨居ハイム(2009年神奈川建築コンクール優秀賞、よこすか景観賞)、沖縄県看護研修センター(2015年環境建築賞最優秀賞)、龍谷大学深草キャンパス和顔館(2016年BCS賞、京都建築賞優秀賞)、大和町団地(2016年神奈川建築コンクール最優秀賞)など、多数。



James Cutler,
FAIA
ジェームス・
カトラー 建築家

1977年よりカトラー・アンドーソン建築設計事務所を共同主宰。土地や計画、そして文化的環境についての造詣の深さで知られており、全米及び地域レベルで50を超えるデザイン賞を受賞。ペンシルベニア州立大学で建築学修士号と修士号を取得後、レイス・カーンスタジオ課程で建築学修士号を取得。全米5州の登録建築家であり、ダーツマス大学、ハーバード大学大学院、カリフォルニア州立大学バークレー校をはじめ、ペンシルベニア、オクラホマ、ワシントン、オレゴンの各州立大学で建築デザインを講義する。主な受賞: AIA Housing Award 2017/Pennsylvania Farmhouse, 2016/Newberg Residence, AIA National Honor Award 1996/Medina Residence, AIA COTE TOP 10 PLUS 2016/Edith Green Wendell Wyatt Federal Building, AIA COTE TOP 2014/Edith Green Wendell Wyatt Federal Building

東京では日米の建築家による 「日米建築家懇談会」を開催



ジェームス・カトラー氏の作品、左上は Pennsylvania Farmhouse (AIA Housing Award 2017)、下は左右共に Newberg Residence (AIA Housing Award 2016)。右上は東京の建築家会館での日米建築家懇談会風景

なところを生かし、鉄やコンクリート、その他の金属などと組み合わせたハイブリッドな木造建築を数多く手掛けでおられます。

今後、都市の木造建築は4階建てや5階建てなどますます高層化していくはずで、それらに応える新しい構造として木材でこれからやれることに挑戦していきたいと語られ、手掛けられた色々なパターンの新しい木造建築についてご説明いただきました。また建築設計をもっと身近に考えてもらうため横浜市内にある氏の事務所はライブラリー＆カフェとして街にオープンに運営されています。設計事務所は、人が集まる場所であり、書籍など知識の蓄積された場所であり、未来を考えるのに最適な場所なので、この地の設計事務所でも同じような展開をし

て欲しいと提案されたのが印象的でした。

全米広葉樹製材協会のスペサート氏からは、アメリカ広葉樹は優れたライフサイクルアセスメント(LCA)で環境に配慮された素材であり、成長量が伐採量を上回っていることやアメリカ広葉樹輸出協会の全メンバーが発行できる「アメリカ広葉樹環境プロファイル(AHEP)」が欧米や世界地域で合法性証明として認められている点などが説明されました。さらに、日本で5月に施行されたクリーンウッド法にも対応しているとのことです。最後に木材塗装研究会の長澤良一氏から広葉樹の塗装方法や正しい塗料の選び方についてご説明いただきました。

仙台でのセミナーの前日である6月27日には東京の建築家会館にカトラー氏を迎え、

日米での環境建築への取り組みやアメリカ広葉樹を含む木質内装材利用に対する考え方について意見交換を行おうと「日米建築家懇談会」を開催しました。参加者は、(公社)日本建築家協会(JIA)・関東甲信越支部とアメリカ建築家協会(AIA)・日本支部の方々で、日本側講師にはJIA関東甲信越支部住宅部会長である片倉隆幸建築研究所の片倉隆幸氏をお招きし、それぞれの作品についてご説明いただきました。

その後のフリーディスカッションではご参加いただいた50名近くの建築家との意見交換や質疑応答がなされ、夕方6時からレセプションを含めて約4時間という長丁場でしたが、有意義な懇談会となりました。



Dana Spessert
ティナ・スペサート
全米広葉樹製材協会
主席等級検査官



長澤 良一
Ryoichi Nagasawa
木材塗装研究会
運営委員



片倉 隆幸
Takayuki Kataura
片倉隆幸建築研究所
建築家

1983年芝浦工業大学大学院建築計画みねぎしやすお研究室修了。

1987年片倉隆幸建築研究室主宰、住宅作家として県内外で活動。

2003年-2012年信州大学工学部建築学科非常勤講師、2014年～Uejiba建築学科講師、2016年首都大学東京大学院非常勤講師。

主な受賞:1994年長野県建築文化賞最優秀賞、関東甲信越建築士会プロ

ック会賞。1998年長野県建築文化賞最優秀賞。1999年日本建築学会

「北陸建築文化賞」、関東甲信越建築士会プロ

日本初の「アメリカ広葉樹等級格付ワークショップ」
福岡・柳川と静岡で成功裡に終了、今後全国各地での開催を検討



静岡でのワークショップ風景

日本市場でのアメリカ広葉樹への関心が高まる中、国産材とは大きく異なる等級格付の考え方を正しく理解していただこうとアメリカ広葉樹輸出協会では日本で初めてとなる「アメリカ広葉樹製材等級格付ワークショップ」を開催しました。

今回は、2017年12月14日(木)に福岡県柳川市、翌15日(金)に静岡県静岡市の2ヶ所での開催でしたが、関心の高さを反映していすれの会場にも約50名の方にご参加いただきました。

講師は全米広葉樹製材協会(NHLA)の主席等級検査官であるデイナ・スペサート氏。地元の木材問屋にご協力をいただき、アメリカ広葉樹製材の現物を会場に持ち込み、参加者が講師の説明を受けながら実際に作業するという体験型のワークショップです。スペサート氏からアメリカ広葉樹の等級格付の考え方についての説明の後、「ルーラー」と呼ぶアメリカ広葉樹製材を計測

する専用の物差しを用いて製材を測り、歩留り計算をして等級を分けるなど、参加者に体験していただきました。

米国の全米広葉樹製材協会では数週間かけて実際に作業をしながら学ぶ内容であり、通訳を介して約2時間で理解すること自体大変難しい内容でしたが、アメリカ広葉樹の等級格付を理解するまでの基本的な知識を得ていただけたのではないかと感じました。終了後のレセプションでも時間いっぱいままでスペサート氏に熱心に質問する参加者が多く、非常に内容の濃いワークシヨップになりました。

ご参加いただいた木材関係の皆様に大変好評であり、今後日本各地でのワークショップの開催も検討していく予定です。

ワークショップに先駆け、全米広葉樹木材協会(NHLA)発行の「NHLA Rulebook」の日本語翻訳版「等級格付規則集」を発行しました。専門的な内容のアメリカ広葉樹材の格

ワークショップ終了後のセッション風景
付方法を英文でご理解いただくことは大変
難しいので、当冊子では100ページを用
い、可能な限り分かり易く日本語で解説し
ています。

ご希望の方はアメリカ広葉樹輸出協会のホームページよりお申込みください。無料でお送り致します。

CONTENTS	
はじめに	02
NHLA 国際規格付規則	
一般規定	04
被審査機関の認定方法	11
被審査機関（一般認定）の申請	12
申請書類	22
サブプレス材の申請	41
木工機械の申請	55
人工木工機械の申請	60
木材の申請	63
木造構造物の申請	83
被審査機関	87
NHLA 認定マーク	93
認定機関	94
再認定申請と認定	78
認定機関の監査	86
規則の変更	86
メートル法換算表	89
索引	97
目次	12

デザイン素材としての突板の魅力をどう伝えるか 東京で「アメリカ広葉樹突板懇談会」を開催

4月18日(火)、東京都内のホテルにてアメリカ広葉樹輸出協会(AHEC)は「アメリカ広葉樹突板懇談会」を開催しました。昨年4月に大阪で開催した突板懇談会の第2弾となる今回は、建築家、ゼネコン、住宅メーカー、木材・突板業界や関係機関など80名以上の方にご参加いただきました。

米国大使館農務官のジェス・ポールソン氏の挨拶に続き、米国より招聘のダンサー・ベニア・アメリカス社のビジェイ・レディー副社長より、「米国のアメリカ広葉樹突板の現状と輸出」と題し、アメリカ広葉樹の突板の輸出や米国内の需要、市場動向の現状等を始め、突板の加工や使用方法について多くのグラフやスライドを使い詳しくご説明いただきました。

ついで昨年はミラノ・サローネの各社ブースでの突板への回帰ともいえる動向をお話いただいた安多化粧合板(株)の安多茂一社長から「意匠素材としての広葉樹突板」と題し、ヨーロッパの最近の建築物に見る著名建築家の突板の使い方の事例をご紹介いただきました。日本と異なり、空間の雰囲気作りのためのデザイン素材として突板が使われているのが新鮮でした。ペーター・ズントー設計のケルンのコロンバ美術館のラウンジでは、マホガニー材の突板をシンメトリーなパターンで連続させて使うことにより無垢材ではできないデザインの柄のリズムを生かした空間が作り上げられています。

レム・コールハース主宰のOMA設計のヴェネチアの免税店(T Fondaco Dei Tedeschi by DFS)では、階段を上る際に目につく階段裏に単なる素材ではなく、デザイン素材としてチーク材の突板が張られています。

アメリカ広葉樹のホワイトオークとウォルナットを使ったジョン・ポーソンの手によるキッチンメーカーbulthaup社のミラノのショールームでは、ホワイトオークの色ムラやウォルナットの白太が空間のデザイン作りに生かされています。

さらに、林野庁林政部木材利用課の吉本課長補佐から特別講演として、5月20日から施行される「クリーンウッド法」について説明を頂きました。この法律は、合法木材等の

流通及び利用の促進に関する法律で、公共建築物に限っていた「改正グリーン購入法」に対し、一般建築物まで対象を拡大したのですが、アメリカ広葉樹はこの新しい法律にも適応しており安心してお使いいただけます。

その後、レディー副社長や安多社長を含む9名のパネリストにより、アメリカ広葉樹突板の現状や将来性についてフリーディスカッションが行われました。

日本市場の特殊性として欧米の国際標準である0.5mm、0.6mmに対し、0.2mmや0.15mmの薄突きが挙げられますが、北三(株)の尾山信一社長は日本の突板は1900年頃から家具業界と共に成長を続けてきた中で、独自の柄や差別化への要求に応え、良い柄を同じロットで数多く作るため従来の1.5mmから0.2mmの薄突きになったと由来が説明されました。コストや木材の有効活用にもつながり、また厚みの薄い方が燃える部分が少ないと難燃性の観点からも後押しされた結果、日本市場に薄突きが定着したのです。

一方、コスト面や印刷技術の向上による木目の印刷シートのシェア拡大は、突板市場を圧迫する大きな要因ですが、安多社長から、一般消費者の志向は天然木の感触や本物意識という流れであり突板の将来性は明るいとの意見がありました。

最後に本会の発議者でもある全国天然木化粧合板単板工業協同組合連合会(全天連)の松尾和俊会長からアメリカ広葉樹は原料の供給量が世界の28%もあり、蓄積量も増加しており、樹種の多さや環境への優しさの面でも大きな期待を持っている。シート貼りの問題はあるが、安多社長のプレゼンを見て、木目の美しさや質感だけでなく突板の魅力はまだまだ広げられることが確信できたとの感想により締めくくられました。



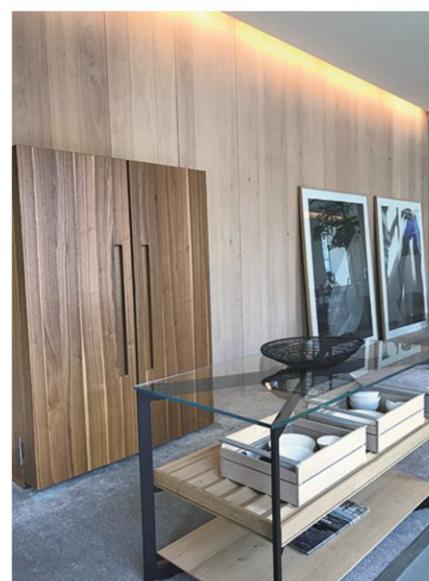
左からダンサー・ベニア・アメリカス社のビジェイ・レディー副社長、安多化粧合板(株)の安多茂一社長、林野庁木材利用課・吉本昌朗課長補佐



ケルンのコロンバ美術館のラウンジ（設計ペーター・ズントー）



ヴェネツィアの免税店の階段裏（設計OMA）



bulthaup社のミラノのショールーム（設計ジョン・ポーソン）

アメリカ広葉樹の格付等級を理解しよう

アメリカ広葉樹製材等級イラストガイドを発行



アメリカ広葉樹輸出協会は、アメリカ広葉樹製材の等級格付規則についての簡潔で十分な説明を目的として「アメリカ広葉樹製材等級イラストガイド」の新刊を発行しました。

当規則は今から100年以上前、当時結成されたばかりの全米広葉樹製材協会(NHLA)によって設定されたものですが、世界中に2,000以上の会員を有する現在も米国広葉樹産業の規準であり、輸出製材等級格付の基本となっています。

天然素材である木材は、自然の恵みであるため様々な自然の特性や欠点を持っており、それを理解し、許容しながら使い分けなければなりません。そのために製材工程で製材を等級格付することにより、各々の製材の価値と用途がおおよそ決まります。

このNHLA等級格付規則は、広葉樹製材取引において売買両者いずれにも明快な共通言語を提供するものです。本来の対象は米国市場ですが、希望する品質の米国産製材を入手するためには、海外のバイヤーもそれについての適正な知識が不可欠です。

木材加工業においては、仕入れた材の等級がコストと材料歩留りを決定します。格付は木取りできるクリア材の歩留りに基づいており、広葉樹に見られる美しく、自然な特長の多くはクリア材の計算においては考慮されません。当冊子は、主要な広葉樹9種について、おもな等級には写真により自然の材面の美しさを詳しく説明しています。

広葉樹製材は通常、木製品の材料として使用することを前提に、製材から木取りできるカッティング(cutting)の寸法と数を基

本として等級格付します。NHLA等級格付規則は本来家具での使用を想定し、クリアで欠点のない材面の歩留りによって各等級が策定されました。高い等級の材からは長尺のクリア材が取れます、コモン等級の材は短尺のクリア材を木取りすることを想定しています。

No.1コモン(No.1C)およびNo.2Aコモン(No.2AC)を中心とするコモン等級材は、キッキンキャビネット、家具部材、フローリング材などに最も適しているといえます。注目すべきは、コモン等級材を挽き直すことで、上級材とまったく変わらないクリアなカッティングを取りができるのです。違いは材寸が小さい、すなわち細くて短いカッティングとなることです。等級はクリア材の歩留りを表すものであり、材面の外観を反映しているものではありません。

米国の温帯広葉樹林は同種の森林資源としては世界最大で持続可能性という点でも際立っています。コストと歩留りの両面で今後さらに木材の価値を最大に引き出していくためには、コモン等級の活用を可能な限り進めることが重要です。こうした努力が、数世代に渡って引き継がれていく持続可能な森林資源の実現につながります。

当冊子はご希望の方に無料でお送りしています。ホームページからお申し込みください。当冊子でアメリカ広葉樹の格付等級に関して理解いただき、ご希望の品質のアメリカ広葉樹製材を入手してください。

アメリカ広葉樹建築家セミナーのご案内 「木材の可能性を探る」

日時 2018年6月27日(水) 13:30~18:00

レセプション 18:00~19:30

会場 名古屋マリオットアソシアホテル

16F アイリスⅠ 名古屋市中区名駅1-1-4

講師とテーマ

- 「森と都市の共生 いろいろな木を使う」 東京大学生産技術研究所 構造家 腰原幹雄
- 「米国高級インテリア市場でのアメリカ広葉樹のユニークな活用法」 NK Woodworking & Design Nathie Katzoff
- 「米国広葉樹市場に基づく最新の広葉樹製材等級格付」 全米広葉樹製材協会主席等級検査官 Dana Spessert
- 「広葉樹の魅力を活かす塗料と塗装」 木材塗装研究会運営委員 長澤良一



腰原幹雄 東京大学生産技術研究所
CLT cafe 兵庫県 2016



NK Woodworking & Design Nathie Katzoff
NK Woodworking + Lotus+Bath



木構造研究の第一人者である東京大学生産技術研究所の腰原幹雄教授が木材を建築物に活用する多様な可能性を構造的な観点から語り、米国から来日のNK Woodworking & Designのネイシー・カツオフ氏がデザイン素材としての木材の新しい使い方について語ります。さらにアメリカ広葉樹の等級格付方法や米国広葉樹業界の現状、広葉樹の塗装法や塗料についてなど盛りだくさんな内容です。多くのみなさまのご参加をお待ちしています。

ホームページのご案内

www.ahec-japan.org/

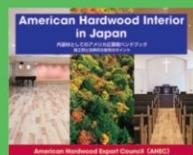
ホームページでは、アメリカ広葉樹輸出協会の活動状況、樹種に関する説明、その他アメリカ広葉樹についての最新の情報をご提供しています。

アメリカ広葉樹輸出協会 American Hardwood Export Council (AHEC)
〒530-0047 大阪市北区西天満2-11-5 アメリカ総領事館内 Tel. 06-6315-5101 Fax. 06-6315-5103



パンフレットのご請求

アメリカ広葉樹に関する様々な情報満載のパンフレット、各種資料をご用意しています。左のホームページにてご請求ください。無料です。



左から、樹種解説、等級格付、内装材としてのアメリカ広葉樹ハンドブック。この他の資料についてはホームページでご確認ください。